



未開の荒野を切り開き、  
洞爺村の礎となった先人たちの努力を忘れず、  
洞爺湖町の明るい未来を築こう。

閉村にあたってのあいさつ

洞爺村長



未開の荒野を開拓

明治二十年五月十日、香川  
県の移住団の三橋政之団長は  
か、二十二戸七十六名が未開  
の洞爺に第一步を印し、原始  
林におおわれた現在の大原の  
地に開墾の鋤を下ろしてから  
百二十年の歳月が流れました。  
また、大正九年五月五日、  
当時の虻田村から分村し、名  
実ともに洞爺村が誕生してか  
ら八十六年となりました。

その間、未開の荒野を開拓した先人たちの計り知れない努力と、地方自治の幾多の変遷を経ながらそれぞれの時代を精一杯生き抜き、現在の洞爺村を築き上げて来た村民の皆様のを想起し、深く敬意と感謝の意を表したいと存じます。

本村は、太平洋戦争などで一家の働き手に対する兵役召集や昭和三十年代半ばからの高度経済成長期の都会への人口流出など、時代の荒波に翻弄されながらも開拓当時より純農村として歩み、着実に発展を遂げてまいりました。

有数の野菜産地に発展

昭和四十五年からの第二次農業構造改善事業による近代的施設園芸団地の形成、昭和六十二年から天候に影響されない農業振興をめざした国営大原地区かんがい排水事業などを展開し、現在道内有数の野菜産地となるなど一大農業地域となつております。

また、洞爺湖の恵みを生かしたキャンプ場、水の駅などの観光レクリエーション施設や都市と農村の交流を図る農業研修センターなどの体験施設の整備、ぐるっと彫刻公園整備や国際彫刻ビエンナーレなどの芸術・文化発信など特色ある事業を展開して成果を

上げ、本村を訪れる観光客の増大を図り、老朽公営住宅の建替えなど住民生活の安定に努めてまいりました。

しかし、地方の過疎化、全国的な少子・高齢化など時代の大きな流れの中で、人口の減少が続く、近年は横ばい傾向となりながら徐々に減少して来ています。

また、今年は児童数の減少に伴い地域の皆さんのご理解を得て、村内四校の小学校を閉校し、来年度から一校に統合することになりました。

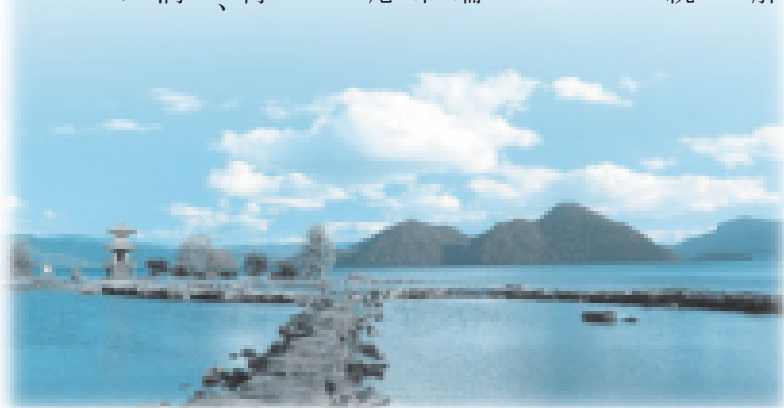
新町として新たに出発

合併は、国の財政危機に端を発したとはいえ全国的に市町村合併が進み、時代に対応できる自治体の力量が問われる中で、本村としても村民の皆様さんのご理解、ご協力を得て虻田町との合併協議を進めて平成十八年三月二十七日「洞爺湖町」として新たに出発することになりました。

今後は、洞爺湖温泉などの

觀光地や海面漁業と本地域の農業が有機的に結び合い、新生「洞爺湖町」が大きく発展することを念願してやみませ

結びに、村民の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしました。閉村のご挨拶といたします。



## 洞爺村議会議長

佐々木良一



### 先人各位へ心より感謝を

今年の冬は例年にならない寒波と大雪に見舞われました。まだ残る白銀の世界の中で、虻田町との合併により閉じ行く洞爺村の歴史、時の移りを静かに見つめております。

明治二十年五月、三橋政之団長以下七十六名の皆さんが一の原、二の原の開拓に当たって以来、先人の血と汗の結晶として今日の洞爺の大地が拓かれて来ました。

大正九年六月、虻田村より分村して以来、その時代時代の村民の皆様の懸命の努力により、洞爺村としての歴史が一步一步着実に刻まれて来ました。三月二十七日虻田町との合併をもって、八十六年の

洞爺村としての歴史に幕を下ろすことになりましたが、今までの洞爺村を築いて来られたすべての皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

### 新洞爺湖町の発展を願う

そして、又今年は四小学校が統合して一つの小学校になります。教育の歴史にとっても大変大きな転換の年になりました。特に大原、香川、成香の皆様にとっては開拓以来地域の中心として、活動の拠点として、心の拠り所としての学校が地域からなくなるという二重の激変の年を迎えております。

平成の全国的な大合併の動きは、明治の廃藩置県制の施行以来、百三十五年その仕組が変わらなく来たことの時代に対する閉塞感、近代社会の中で行政の仕組、あり方そのものが問われる大きな国家の変革の中で、地方自治体は今まさしく、大波のうねりの中

に置かれている状況下にあります。このような中で洞爺村は虻田町との合併を選択し、新たな洞爺湖町へ期待を込めての出発となりました。

洞爺村と虻田町はそれぞれにない特徴を持っております。お互いにない特徴を生かし合った町づくり、地域の発展が期待されます。

今自治体は自己判断、自己決定と言われますが、今まさに自分達の地域は自分達で作って行くのだという「住民自治」の力が求められていると思います。この町村合併を住民自治元年として、新町において作られる地域審議会や自治活動を通して住民の皆様方の力強い活動を心より願います。

「住めば都でない。都にして住むのだ。」という赤木三平氏の言葉を想い起こしながら、私も議員も一年余の在任特例の中で新しい町づくりのため全力で頑張ることを誓いながら、新しい洞爺湖町の発展を願い洞爺村閉村にあたって

のご挨拶といたします。



# 閉村式で洞爺村に幕

先人の偉業・労苦並び洞爺湖町の発展を念願

洞爺村は虻田町との合併により、三月二十六日をもって閉村することになり、郷土開拓から今日まで、幾多の試練と困難を乗り越え、今日の礎

を築かれた先人の方々の偉業を偲ぶとともに、新生「洞爺湖町」の今後の発展を念願し三月十九日午前十時から、洞爺村総合センターにおいて洞



児童生徒たちが村旗を降納する。



菊地村長が式辞を述べる

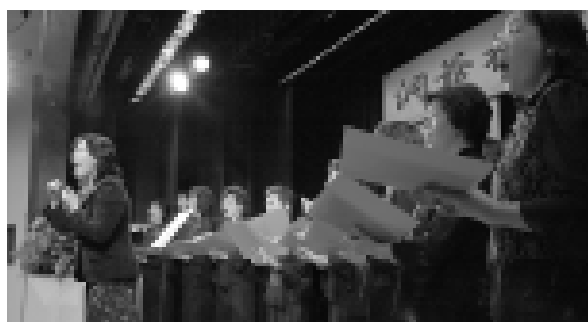
爺村閉村式が行われました。式典は、関係機関、村議会議員、村内自治会及び各団体代表者の方々など関係者百三十余名ほか村職員が出席して行われました。物故功労者に対する黙祷をさげた後、菊地勉洞爺村長より式辞が述べられ、続いて佐々木良一洞爺村議会議長の挨拶、杉上英勝洞爺村助役より合併経過報告、佐藤功胆振支庁長より挨拶をいただきました。



佐々木議長の挨拶

続いて、洞爺村の歴史を振り返る記録映像が放映され、参列した皆さんは懐かしい映像に見入っていました。

さらに洞爺中学校吹奏楽部の皆さんの演奏に合わせて、児童生徒代表が洞爺村旗を降納し、菊地村長に手渡されました。最後に、女声コーラス・フラワービーンズの皆さんが「洞爺湖畔の夕月に」を合唱し、参列者全員が「ふるさと」を合唱して閉村式を締めくくりました。



式典の最後を飾ったフラワービーンズによるコーラス



洞爺中学吹奏楽部による伴奏

## 洞爺村から洞爺湖町へ

### 洞爺村史等から振り返る

平成十八年三月二十七日、洞爺村は、虻田町と合併し、洞爺湖町として新たな歴史を刻むこととなります。

昭和五十一年十月発刊された「洞爺村史」等の資料からその歩みの概略を辿ります。

#### 入植以前

#### 明治十九年に虻田郡下の人口七百七人

明治の新政府ができると、地方自治の制度も政府の方針に従って、今まで幕府が行ってきた町や村の形から大きく変わって行きます。

北海道の場合は自治制がとられていたのは、松前藩の領地である渡島と、小樽のように土着の和人が多くなつた限られた蝦夷地だけで、それ以外は町も村もない無からの出

発であり、ひとつの形を整えてゆくまでは、めまぐるしい制度の改廃が行われました。

政府は明治十一年「郡区町村編成法」等を公布して、明治十二年新しく全道九十郡区八百二十六町村を作り、明治十三年本道に初めて統一された戸長役場が誕生しました。

村といっても人口の少ない所では単独で戸長を置くことができず、このときには郡区役所を置いたのは二十一、戸長役場は百三十六しか置かず、大方の戸長役場は二つ以上の村の面倒を見ることとなり、明治十三（一八八〇）年虻田郡各村戸長役場が虻田村に設置され、虻田、振苗、弁辺、礼文四村を管轄しました。

戸長役場には今のような村議会はなく、総代人の制度があるのみでした。

当時の虻田村は、現在の俱

知安、京極、留寿都、喜茂別、真狩、ニセコ、虻田、洞爺の各町村を含めた広大な面積であり、明治十九（一八八六）年、虻田郡下の戸数は、百六十二戸、人口七百七人（北海道勸業年報）でした。

#### 虻田郡各村戸長役場所属

#### 香川県移住団が洞爺開拓

北海道庁が明治十九年に設置され、北海道の開拓がようやく軌道に乗ってきた明治二十（一八八七）年五月十日、三橋政之を団長とする香川県の移住団二十二戸、七十六名が、密林に覆われた洞爺の地に第一歩を印しました。

今の大原に仮小屋を建て、共同開墾により苦勞の末に播き付けた作物は、九月初めの早霜のため、わずかの芋とそ

ばのほかは一物も収穫できなかったのです。

三橋団長は、次の年への資金の準備に奔走し、農民は伊達、室蘭の方へ出稼ぎにでて飢えをしのぎ春を迎えたが、その年も結果は前年と同じでした。

この土地に見切りをつけようの声がささやかれるなかで団長は移住民全員を三樹の下に集め、三樹が同じ場所ですぐに繁っていることにたとえ、互いに助け合って最初の目的を達するため、一層の団結を訴え、離散を食い止める一方、道庁に働きかけ湖畔に十、四万坪の貸下げの許可を取ることができたのです。

明治二十二（一八八九）年、第二次香川移住団八十余戸が今の市街地区や香川に入り、明治二十四年には林竹太郎を中心とする伊達キリスト教徒の手によって旭浦に本道最初の孤児院が誕生し、明治二十八年その基本財産として払下げを受けた成香の六百ヘクタールに数十戸の小作人が入り





開墾に着手し、現在の洞爺村の基礎ができ上がって行きました。

明治二十年に移住して明治三十年頃まで当時の本村を含む虻田村の基幹農作物は小豆が圧倒的にトップで、その後は昭和十年ころまで大豆が最も多く作られました。

## 二級町村虻田村所属

### 村会議員選挙行われる

わが国で市制及び町村制が公布されたのは、明治二十一年ですが、北海道はずっと遅れて明治三十三（一九〇〇）年、室蘭町ほか十五町村に一級町村が、明治三十五（一九〇二）年、虻田村ほか六十一の村に二級町村制がしかれ、虻田村・弁辺村組合役場が設置され、初代村長が就任しました。

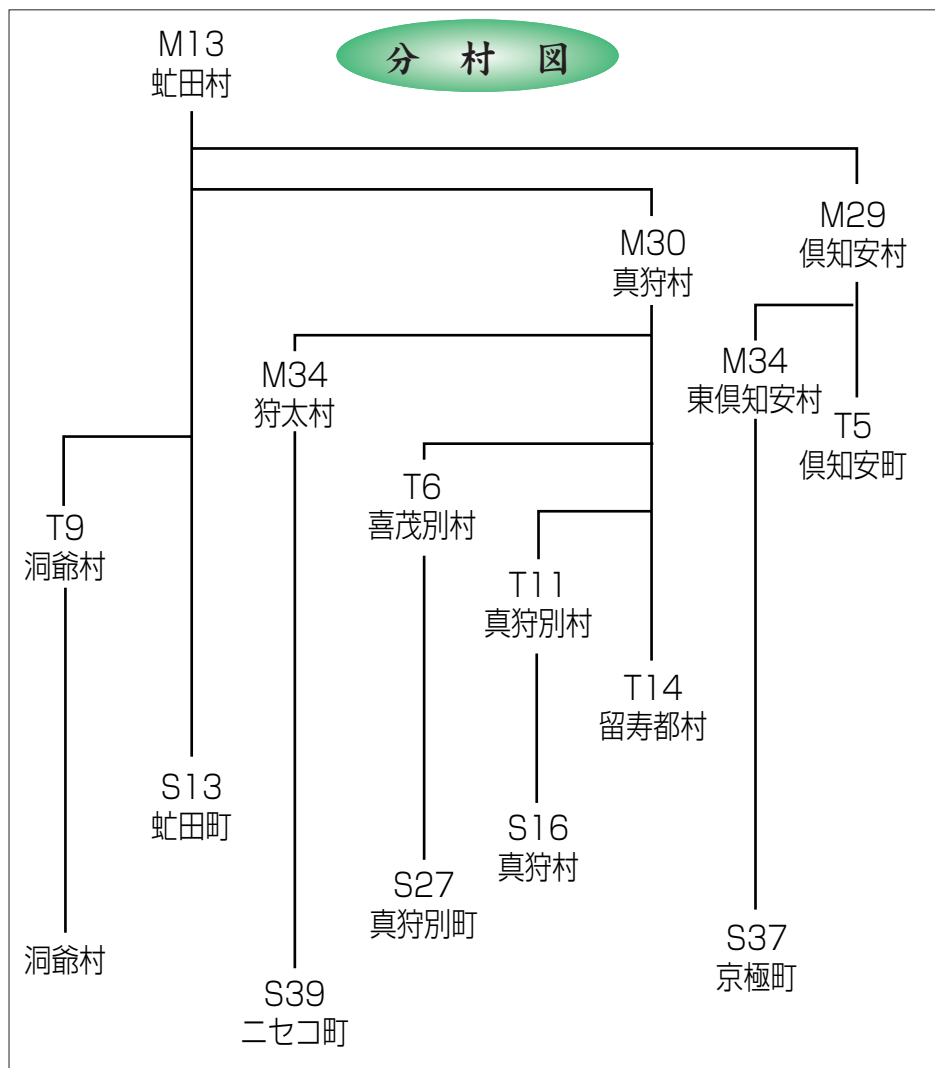
初めて村会議員選挙が行われましたが、選挙は男性、税金や耕地所有面積等による資格制限選挙であり、明治三十

五（一九〇二）年の虻田村（今の虻田町と洞爺村）の六二八戸、人口四四八四人のうち、有権者はたった一六三人でした。

同年、向洞爺郵便取扱所の

開設、向洞爺に巡査駐在所、医院などが設置されました。明治四十（一九〇七）年には、富丘部落の開拓が開始され、最初に仙台団体が五・六十戸入植したと伝えられてい

ます。大正三（一九一四）年、虻田村役場から出火し、庁舎を全焼、重要書類全部を焼失する事件もありました。



## 二級町村洞爺村誕生

### 優良自治団体表彰受ける

大正九（一九二〇）年、五月五日、虻田村から分かれて洞爺村が誕生しました。六月一日午前十一時半から洞爺村開庁式が行われ、祝賀会には三隻の発動機船を浮かべ中島を周遊し、旗行列をして祝いました。

【大正九（一九二〇）年、第一回国勢調査が行われ、五四四戸、人口三三二〇人。】

大正十二（一九二三）年、壮瞥村の一部の字美利加別以西（川東・岩屋）が洞爺村に編入され、同年、電話も開通しました。

【大正十四（一九二五）年、第二回国勢調査は五八一世帯、人口三四三三人。】

北海道では、昭和五（一九

三〇）年の豊作による農産物価格の大暴落、昭和六（一九三二）年、七（一九三三）年は連続凶作により、基盤の弱い農村の危機は深刻になってきました。

国は農村の疲弊を救い、国民の生活の安定を重要課題とした方針を打ち出し、道庁は「経済更生計画」を定め、全道各町村に奨励するとともに洞爺村、栗沢村など、十八町村を「特別指導町村」に指定し、モデル町村としての指導と育成を開始しました。

純農村として発展してきた本村にとって、経済の建て直しは切実な課題であり、指定を契機に、分村以来低迷が続いた村に活力と更生への自信を植え付けて行きました。

特別指導村としての努力と成果が認められ、昭和十三年には優良自治団体として、内務大臣表彰を受けることとなりました。

【昭和十（一九三五）年、第四回国勢調査、五一八世帯、三

一八八人。】

昭和十一（一九三六）年、洞爺アスパラガス組合ができた。結成式が行われ、本村でアスパラガスが換金作物として栽培されるようになりました。

昭和十二（一九三七）年から日中戦争が始まり、本村にも召集令状が届く時代となり昭和十六（一九四一）年、太平洋戦争に突入、米英映画の上映禁止、昭和十七（一九四二）年、食塩、味噌、醤油の配給制、衣料切符制が始まり悪名高い「欲しがりません勝つまでは」という言葉も生まれました。

そのような中、昭和十八（一九四三）年、改正市町村制が実施され、二級町村制は廃止となり、内務大臣の指定町村となり初めて助役が置かれました。

### 戦後復興

#### 食糧増産と農業技術向上

昭和二十（一九四五）年、終戦となりましたが、同年全国的な凶作により食糧事情の極度の悪化で各地にヤミ市、食糧の買出しなどで列をなす混乱期があり、その後食糧増産、農業技術向上の活気に満ちた戦後復興期を迎えます。

同年、新選挙法が成立し、婦人参政権が与えられました。本村でも昭和二十二年（一九四七）年、七年ぶりに村議会議員選挙が行われるとともに、初代公選村長が誕生しました。

【昭和二十一（一九四七）年、臨時第六回国勢調査は、五九二世帯、三六三九人。】

それまでの農業会は昭和二十三（一九四八）年農業協同組合に衣替えし、昭和二十四（一九四九）年、大原、香川等の集荷倉庫新築、昭和二十七年（一九五二）年、トラクターを導入した耕土改良事業、昭和三十三年（一九五七）年、雑穀乾燥工場建築など生産増加と品質向上に努めました。



【昭和三十（一九五五）年、第八回国勢調査は、六四一世帯三七九八人。】

### 高度成長期以降

#### 都市への人口流失・少子化

昭和三十年代半ばから始まった経済の高度成長は、重化学工業を繁栄させ、人々の生活水準は向上しましたが、農村から都市への大量の人口流出をもたらした。農村社会の過疎化、高齢化の原因となりました。

近年では女性の社会進出、経済の低迷などによる少子・高齢化が進んでいます。

【昭和四十（一九六五）年、第十回国勢調査は、六九八世帯三四〇九人。】

本村では、野菜作りの先駆者の努力のもとに、昭和四十一（一九六六）年、そ菜園芸技術研究会が結成され、昭和

四十五（一九七〇）年から第二次農業構造改善事業を導入し、野菜の近代的施設園芸団地が形成されました。

【昭和五十（一九七五）年、第十二回国勢調査は、七〇六世帯、二五九七人。】

その後も村では、昭和五十八（一九八三）年、前年の温泉ボーリングの成功による、洞爺村いこいの家開設、平成元（一九八九）年から平成九（一九九七）年のとうや湖ぐるつと彫刻公園五十八基の整備昭和六十二（一九八七）年から平成九（一九九七）年の国営大原地区かんがい排水事業など、広域的な視野に立った事業を行いました。

【平成七（一九九五）年、第十六回国勢調査は、七二七世帯二二六九人。】

また、近年平成五（一九九三）年から国際彫刻ビエンナーレを始め、世界中から優秀

な彫刻を集め世界の芸術文化を発信する事業を隔年で展開するなど、ユニークな事業も展開し、今日に至っています。





## 議会の動き

平成十八年第一回洞爺村議会臨時会

### 一般会計補正予算ほか

#### 五議案を原案どおり可決

平成第十八年第一回洞爺村議会臨時会が、二月二十三日開かれ、「平成十七年度洞爺村一般会計補正予算」ほか合わせて五議案が原案どおり可決されました。

### 一般会計補正予算

大雪による村道除雪委託やソウベツ川河岸災害復旧工事等に伴う追加補正、村道改良舗装事業等の完了や地域総合整備資金貸付事業の本年度中止などに伴う減額補正などによるものです。

### 虻田町・洞爺村合併協議会の廃止について

二町村の合併協議が終了することによるものです。

### 虻田町及び洞爺村の合併に関連する業務の事務委託廃止について

合併準備のための事務が終了することによるものです。

胆振西部六市町村介護認定審査会を共同設置する地方公共団体の数の減少及び胆振西部六市町村介護認定審査会共同設置規約の変更について

伊達市と大滝村の合併によるものです。

### 胆振西部介護認定審査会の廃止について

合併に伴い、新たな形で認定審査会を設置することによるものです。

## 新たな「西胆振消防組合」

### スタートを祝い記念式典

胆振西部五町村が組織する

西胆振消防組合と伊達市消防が合併し、二月一日、新たな「西胆振消防組合」が誕生したことから、同日午前十一時伊達市消防・防災センターにおいて、西胆振消防組合広域再編記念式典が行われました。

式典には、各市町村の首長や議長、消防関係者など約百五十人が出席し、新組織のスタートを祝うとともに、決意を新たにしました。

同組合管理者に選任された菊谷秀吉伊達市長が、「市町村合併により一市三町となるが、この地域にふさわしい消防力の強化、消防活動活性化を探り、災害の少ない安全で安心な防災体制を確立したい」と式辞を述べたほか、同組合議会議長の松岡範男豊浦町議会議員、来賓の佐藤功胆振支庁長、岩間英彦道議会議員、西重幸室蘭市消防団長が祝辞を述べました。

述べてました。

今後は、同組合消防本部を同センターに置き、当面、同組合伊達消防署と同組合洞爺湖消防署の二署体制で運営されます。

洞爺支署は、同組合洞爺湖

消防署洞爺支署として、引き続き職員七名の三交代制（支署長は除く）で、消防車両も変わらず四台（タンク車、大型水槽車、積載車、広報車）体制となっています。



西胆振消防組合管理者に選任されあいさつする菊谷伊達市長

## 洞爺村最後の議会、補正予算を原案どおり可決

平成十八年第一回洞爺村議会定例会が三月十六日に開かれ、村長、教育長から行政報告を行い、一般会計補正予算の議案一件について、原案どおり可決されました。  
今回が洞爺村で最後の議会となりました。

### 村長行政報告

#### ▽虹田町・洞爺村合併協議会の廃止について

平成十八年三月二日、第十六回虹田町・洞爺村合併協議会が開催され、合併協議会におけるすべての協議が終了し平成十八年三月二十六日をもって廃止されます。

平成十六年七月二十日、第一回の豊浦町、虹田町及び洞爺村での合併協議が始められてから約二年にも及ぶ長期にわたり、合併協議会や協議会小委員会におきまして、精力的にご審議をいただきました

合併協議委員の皆様及び議員各位に対し、心より深く感謝と御礼申し上げます。

#### ▽洞爺湖町の組織及び機構について

洞爺湖町の組織及び機構につきましては、第十五回虹田町・洞爺村合併協議会（平成一月三十日開催）におきまして、第二次原案についてのご報告を行い、原案のとおり承認されました。

これによりまして、洞爺湖町組織体制における二町村の職員配置についての協議を行い、この協議が整いましたのでご報告いたします。

洞爺湖町組織につきまして、本庁二部十一課一出納室及び洞爺総合支所四課と洞爺温泉支所の体制となり、新町の総職員数は百九十七名となります。

#### ▽洞爺村の合併に伴う閉庁式及び閉庁式の実施について

平成十八年三月二十六日をもって洞爺村を廃し、合併の相手方であります現虹田町とともに新町を設置いたしますことから、村では郷土開拓から幾多の試練と困難を乗り越えながら、今日の礎を築かれた先人の方々の偉業と労苦を偲ぶとともに、新生「洞爺湖町」の今後の発展を念願し、三月十九日、洞爺村総合センターにおいて、洞爺村閉庁式を挙行することといたしました。

また、合併に伴い洞爺村役場も廃止となりますことから三月二十四日に洞爺村役場の閉庁式を実施いたします。

#### ▽広域的協議会等の解散について

これまで地域の諸課題の解決に向けた取り組みを推進す

るため、広域的協議会等を設立し、関係機関への要望等、解決に向けた取り組みを進めてきたところでありますが、次のとおり解散することとなりましたのでご報告申し上げます。

#### ①「レイクトピア二」推進協議会

当協議会は、昭和五十八年十二月に胆振西部の六市町村長をもって設立され、洞爺湖周辺の市町村の自然環境や立地条件等を背景に圏域の発展のため国及び道、関係機関に対しての要望活動を軸として独自の活動を展開してきたところであります。

しかし、近年の社会情勢の变革により国・道の施策の変化や市町村合併による構成団体の減等を踏まえ、首長会議において当初の目的は達成されたものと判断し、去る一月三十一日をもって、発展的に解散したものであります。

なお、今後の地域の要望活



最後の行政報告を行う菊地村長

動につきましては、室蘭地方  
総合開発期成会等で推進する  
こととなっております。

## ②洞爺湖環境対策保全協議会

当協議会は、昭和五十年二  
月に虻田町、壮瞥町及び洞爺  
村の首長、議長、観光協会長  
とうや湖農業協同組合長、洞  
爺湖漁業協同組合長、いぶり  
噴火湾漁業協同組合長をもつ  
て設立され、洞爺湖及びその  
周辺地域における環境を適正  
に保全するための総合的な対  
策について協議し、その推進  
を図ることを目的に設立され  
諸活動を展開して来たところ  
であります。当初の目的は  
達成されたものと判断し、去  
る三月六日をもって、解散を  
いたしました。

## ③とうや湖ぐるっと一周線道 路整備促進期成会

当期成会は、平成七年十二  
月に虻田町、壮瞥町及び洞爺  
村の首長、議会（議長、副議  
長、所管常任委員長及び副委  
員長）、商工会長、観光協会長  
とうや湖農業協同組合長、洞  
爺湖漁業協同組合（組合長及

び副組合長）をもって設立さ  
れ、生活文化と産業の振興を  
図るため、洞爺湖一周道路の  
改良整備の促進に関し、要望  
活動を展開してきたところで  
ありますが、「レイクトピア二  
一」推進協議会の解散と同様  
の理由により、来る三月二十  
六日をもって発展的に解散す  
ることとなりました。

なお、今後の道路改良の要  
望につきましては、室蘭地方  
総合開発期成会等で引き続き  
活動の展開を図ることとなっ  
ております。

## ▽洞爺湖町長職務執行者につ いて

虻田郡虻田町及び虻田郡洞  
爺村の配置分合に伴う職務執  
行者につきましては、新しい  
町長が選挙で選ばれるまでの  
間、地方自治法施行令第一条  
の二の規定に基づき、二町村  
の長であった者の中から協議  
により定めた者が、その職務  
を行うこととなっております。  
この協議が整いまして、私

が洞爺湖町長職務執行者を務  
めることになりましたのでご  
報告いたします。

## ▽平成十七年度主要事業の発 注状況について

洞爺村総合センター内部改  
修工事及び洞爺小学校電気設  
備等改修工事について報告し  
ました。

## 教育長行政報告

## ▽平成十八年度洞爺村成人式に ついて

第五十五回洞爺村成人式に  
ついて、成人の前日の一月  
八日午後二時から、洞爺村総  
合センターにおいて実施しま  
した。

本年の対象者は男子十五名  
女子八名の合わせて二十三名  
に対し、式典には十九名の方  
の出席がありました。

新成人の皆さんは、来賓の  
方々や父母を前に、一人ひと  
りが近況報告や社会人として  
の決意・将来の夢を堂々と述

べられ、会場の皆さんより激  
励の拍手をいただきました。

式典終了後の祝賀会では、  
久しぶりに会う同級生や中学  
校時代の恩師を囲んでの懇談  
や小学生・中学生時代の懐か  
しい映像に歓声を上げたりと  
和気あいあいの中で終了しま  
した。

## ▽平成十八年度洞爺高等学校 入学応募状況について

平成十八年度洞爺高等学校  
への入学出願者は、定員四十  
名に対し、現在、男子七名女  
子十四名、合計二十一名とな  
っています。

内、推薦入学出願者二名に  
つきましては、二月十三日に  
面接試験を実施しております。

入学出願者は昨年に比べ、  
八名の減となっておりますが、  
傾向として胆振管内からの出  
願者が半数以上を占めていま  
す。

また、まだ定員に達してい  
ないことから、三月二十七日  
より第二次募集が行われます

ので、札幌方面、胆振各学区  
の中学校に對しまして、在学  
中にホームヘルパー二級など  
の様々な資格が取得できるこ  
とを含め、洞爺高校の特色を  
PRし、再度入学募集の働き  
かけをしてまいります。

## ▽小学校の適正配置について

各地域の皆様の御理解の下  
に進めてきた小学校の適正配  
置については、四校の小学校  
を平成十八年三月三十一日を  
もって閉校し、一校に統合す  
ることになりました。

これに伴い、各小学校の閉  
校式を次のとおり実施しまし  
た。

各小学校はそれぞれの地域  
とともに歩んできた歴史等が  
あり、閉校式及び惜別の会等  
には母校に寄せる多くの方が  
参加されました。

これからは、郷土の未来を  
託す子ども達のために統合小  
学校として「とうや小学校」  
を開校することになります。開  
校式については、四月七日

を予定しております。

記

平成十八年二月十九日

洞爺小学校

平成十八年三月五日

香川小学校

平成十八年三月十一日

成香小学校

平成十八年三月十二日

大原小学校

## 一般会計補正予算

合併に伴い虻田町に委託していた電算システム・ネットワーク統合整備事業事務委託負担金が確定したことによる百八十八万三千円の減額補正です。



最後の議会となり  
あいさつする佐々木議長

# 各地区で冬まつり・雪祭り

二月四日

大原小学校グ

ラウンドで大

原雪祭り、香

川小学校グラ

ウンドで雪中

レクレーショ

ンが行われま

した。

大原・富丘

地区では、今

年も大きな雪

像（となりの

トトロ）と滑

り台が作られ

伊達関内小学

校児童も参加

し、大原冬季



雪の壁を倒す日時計の除幕式

ちが決意表明  
を行い、滑り  
台下に並べら  
れたペットボ  
トルで作った  
ピンをめがけ  
て、タイヤチ  
ューブで滑り  
降りるゲーム  
などを行って  
いました。



ホットドックなど飲食コーナーも人気の  
とうや冬まつり



雪中カルタで盛り上がる成香冬まつり

また、十一月三十分頃から  
香川小学校閉校記念の日時計  
の除幕式が行われ、閉校記念  
実行委員長の山田さんより挨拶  
の後、日時計の前に作られた  
除幕用の雪壁を児童生徒と  
地域の皆さんで押し倒し、除  
幕を行いました。

二月五日には成香冬まつり  
が、成香小学校グラウンドで  
開かれ、メジロ牧場の協力に  
より大型滑り台も作られ、子  
どもたちを喜ばせました。  
時折風雪が吹き荒れる中で、  
多数の地域住民や子どもたち  
が参加して雪中カルタ大会や  
雪上人間はんばなどのゲーム  
が行われ、歓声を上げ楽しん



チューブリレーを行う大原雪祭り



人間ボーリングで楽しむ香川雪中  
レクリエーション

でいました。  
また、二月十二日には、と  
うや冬まつりが総合センター  
駐車場で開かれ、当日は厳し  
い寒さの中を、大勢の親子連  
れや子どもたちが、大型滑り  
台やソリ遊びを楽しみ、長靴  
飛ばしや宝探しなどのゲーム  
やホットドッグ、讃岐うどん、  
カレーなどの飲食コーナーも  
人気を集めていました。



# 村内の四小学校で閉校式

惜しまれつつ終止符



成香小学校で式辞を述べる菊地村長



校旗を菊地村長に返納する洞爺小学校刑部校長



大原小学校では記念モニュメントの除幕式が行われた



思い出とお別れの言葉を述べる香川小学校児童

洞爺村内各小学校が来年度から「とうや小学校」に統合されるため、村内四校の小学校で相次いで閉校式が行われました。

二月十九日に洞爺小学校（刑部守敬校長、児童五十六人）、三月四日に香川小学校（藤田咲美校長、児童十人）、三月十一日に成香小学校（鳥井隆校長、児童十二人）、三月十二日に大原小学校（高丸勲校長、児童十一人）において開催されました。

式典では、児童やPTA、旧教職員、同窓生など関係者が多数参列し、開拓者へ黙祷を行った後、国家斉唱に続き、菊地洞爺村長の式辞、佐々木洞爺村議会議員、羽山胆振教育局長の挨拶、各小学校長の惜別の挨拶が行われたほか、在校児童がステージ前で小学校の歴史や学校生活の思い出、新しい学校で頑張るとの決意を元気に発表して学校に別れ

を告げ、参列者の涙を誘っていました。

参列した皆さんは、長年地域とともに歩み、地域の諸活動の中心となり、心の拠り所となっていた小学校の閉校に深い惜別の想いを胸に刻んでいました。

洞爺小学校は、明治二十五年に虻田尋常小学校向洞爺分校として開校し、明治三十四年に分離独立、昭和二十二年に現名称になり、百十三年の歴史に幕をおろしますが、統合された「とうや小学校」の校舎として、同校を引き続き使用することとなります。

香川小学校は、明治三十三年に仁成香簡易教育所として開校、大正元年に北仁成香尋常小学校、昭和六年に現名称になり、百五年の歴史を閉じます。

成香小学校は、明治三十三年に仁成香尋常小学校として開校し、昭和七年に成香尋常小学校に、昭和二十二年に現名称になり、百五年の歴史を閉じます。

大原小学校は、明治四十年向洞爺尋常小学校特別教授場として開校し、大正六年に二の原尋常小学校に、昭和二十二年に現名称に変わり、九十八年の歴史に幕を下ろします。高台三校の児童は、来年度から「とうや小学校」にスクールバスで通学することになります。

また、式典後は、惜別の会や感謝の会がそれぞれの地域などで催され、出席された皆さんは学校の思い出を語り、名残を惜しんでいました。

なお、大原小学校では、閉校記念モニュメントを製作し、その除幕式も行われました。学校の正門に「人々に深い絆を残し九十八年間の幕を閉じる」とのプレートがはめ込まれ、その横にかつて始業の合図などに使っていた鐘を復元して配置しました。参列した皆さんは、鐘を鳴らして懐かしんでいました。



## 新たな希望を胸に旅立つ

### 各校で卒業式

洞爺村として最後の卒業式が三月に各校で行われ、在校生や父母、教職員、来賓の方々が見守る中で、洞爺小学校十四名、成香小学校一名、洞爺中学校十名、洞爺高校二十六名の児童生徒が卒業証書を受け取りました。

洞爺高校は一日に行われ、代表者の答辞で、初めての寮生活や学校生活への戸惑いやだんだん皆となれて生活できたこと、だめなことはだめ、良いことは良いと担任の先生から学んだなど三年間の思い出を述べていました。



洞爺高校での卒業証書授与式



在校生の贈る言葉を受ける木下くん

成香小学校は閉校式と同日の十一日に行われ、最後の卒業生となった木下龍規君は在校児童から「野球を教えてくれたり、やさしくしてくれてありがとう」などの言葉を贈られ、「とうや小学校に行っても友だちをたくさんつくってください。ほくも思い出や教わったことを忘れず洞爺中学校で頑張ります。」と元氣よく応援していました。

洞爺中学校は十五日行われ、義務教育を終えそれぞれの生徒が新たな希望を胸に旅立ちました。

洞爺小学校は十八日行われ、卒業証書を受け取った後、一人ひとりが小学校生活での思い出や中学校での勉強や部活動への抱負を発表し、最後に参列者全員が校歌を斉唱しました。

## 除雪ボランティア

### 洞爺中学校生徒ら

二月一日、洞爺中学校（太田博之校長）の生徒約二十名ほかボランティアセンター有志の皆さんが、今冬の大雪で除雪に困っていた独居高齢者宅の除排雪ボランティアを行い、喜ばれました。

事前にボランティアセンターや役場が、雪で困っている高齢者宅を調査し、この日は中山英雄宅の除雪が行われました。

洞爺中学校では、除雪ボランティアを毎年実施しており



屋根や軒下の除排雪に精を出す  
洞爺中学生たち

今回も生徒会新聞などの呼びかけに応じた吹奏楽部、テニス部、卓球部の部員などが授業終了後、中山宅にスコップなどを持参し、除雪で汗を流しました。

生徒たちは、玄関先や軒先に降り積もって固くなった雪山を切り崩し、スノーダンプで運び出した後、屋根の雪を落とす作業を熱心に繰り返していました。

## 第二回洞爺村 美味しいものコンテスト

二月三日、第二回洞爺村美味しいものコンテストが総合センターにおいて開催されました。

今年で二回目となるこのコンテストは、一昨年までは「つけものフォーラム」として開催されていましたが、つけも



たくさん「美味しいもの」が出品されたコンテスト

のだけにこだわらず、村民の手による洞爺の活性化を目的として昨年より、「美味しいものコンテスト」となりました。

コンテストの優秀作品からピュアフーズとうやが実際に商品化を行い、昨年の第一回目は、鈴木るみ子さんの「しそ湖の菓」が最優秀賞に選ばれ商品化、販売されています。

コンテストでは、三十五名余りの方が来場し、昨年を上回る三十二品のつけもの、お菓子などの力作が出品されました。

冒頭、西胆振地区農業改良普及センターの田所由理恵さんによる「未来へつなげる食と農業」をテーマとした基調講演が行われ、洞爺村の農業や安心・安全な農作物についての話しなどに耳をかたむけました。

その後、別室では菊地村長をはじめ審査員五名による審

査が行われ、来場者の試食会も行われました。

また、審査発表は、主催者審査員、来場者参加による軽食を取りながらの座談会の中で行われました。

皆さんも、今回は洞爺の産物を活かした一品を応募されてはいかがでしょうか。

審査結果は、次のとおりです。（敬称略）

【最優秀賞】 大西マサ子

「しそくるみ入味噌巻」

【優秀賞】 宮内八千代

「里つに お菓子」

【準優秀賞】 木須ゆり子

「大根しょうが巻酢漬」

【準優秀賞】 星野 光子

「ごぼうミックス漬」

【残念賞】 白石美枝子

「ビエンナーレマシユマロ」

【六位】 堤 敬子

「かぼちゃゼリー」

和泉 和子

「チソふりかけ」

宮内八千代

「かぶの千枚漬」

## 鬼は外、福は内

### 保育所豆まき



鬼に豆を投げる保育所児。泣き出す子もいた。

二月三日、洞爺保育所で恒例の豆まきが行われました。

子どもたちは、自分で作った赤鬼や青鬼の面をつけて集合し、先生から鬼や豆まきについてのお話を聞き、豆まきの歌を元氣よく歌いました。

その後、西胆振消防組合洞爺支署職員が扮する金棒を担いだ鬼が登場し、子どもたちは鬼に向かって「鬼は外、福は内」と掛け声をかけながら、豆をぶつけていました。中には泣き出す子もいましたが、勇敢に立ち向かう子の姿もあり、みんなで鬼を退治しました。

【九位】 石川 達子

「赤カブの酢漬」

三品 優子

「ヤーコン入りんごジャム」

岡野 麗子

「きゅうりの漬け物」

田林 柳子

「紫蘇の実入りの佃煮」

## 絵本で楽しい子育て

### 家庭教育セミナー兼図書室こどもまつり

二月四日、教育委員会では総合センターにおいて、絵本に親しみ楽しく子育てに活用する家庭教育セミナーと図書室こどもまつりを合わせて行いました。



絵本や手遊びで楽しそうな子どもたち

幼児連れの親子や保育所児たちが参加し、たんぽぽの会の会員による絵本の読み聞かせやボウリングゲーム、遠山豊氏による絵本の読み聞かせや手遊び、絵本の紹介など、盛りだくさんの内容でした。

子どもたちは、大きな声で絵本の読み聞かせに反応して答えたり、ペットボトルを倒すボウリングゲームのため親子で新聞紙を丸めたり、へびやカラスのぬいぐるみをかぶせた手遊びに歓声を上げるなど、楽しそうにはしゃいでいました。

## 心地よい音色を堪能

### マンドリン演奏会

洞爺村社会福祉協議会では二月四日、いきがい交流センターにおいて、室蘭商業高等学校マンドリン部を招いて演奏会を行い、集まった村民の皆さんは、土曜日午後のひととき、マンドリンの繊細で力強い音色を堪能しました。



室蘭商業高校生の演奏を楽しむ

演奏は、一・二年生十二名がマンドリンのほか、マンドラ、ギター、コントラバス、パーカッションなどを担当、「川の流れるように」ほか美空ひばり名曲集や「ダイヤモンドヘッド」ほかベンチャーズのヒットメドレー、「津軽じょうんがら節」、「星に願いを」などお馴染みの曲の数々を披露しました。

室蘭商業高等学校マンドリン部を招いての演奏会は四回目となりましたが、来年度室蘭東高等学校との統合を控え、この演奏会が最後となるということで、毎年続けて来村いただいたことに感謝し、顧問の鈴木良伸先生にお礼の花束が贈られました。

## 初心で新たなスタート

### フラワービーンズ

#### 発表会

女声コーラス・フラワービーンズの第二十一回目の発表会が、二月十一日午後二時から洞爺村総合センター集会所で行われ、会場を埋めた村民の皆さんは、若々しく息の合った歌声に耳を傾けました。

発表会は、「銀色の道」、「君をのせて」、「ちいさい秋みつけた」などお馴染みの合唱を披露したほか、聴衆の皆さん



美しいハーモニーを響かせた皆さん

と「ずいずいずつころばし」などの歌に合わせた手遊びで交流を図るなどなごやかな雰囲気で行われました。

昭和六十年三月の結成以来毎年発表会を続けており、塩田直美会長は「去年二十年の節目を迎え、初心に戻り新たにスタートしました。今日も駆けつけて指導、協力いただいている方々や聴きに来ていただいた村民の皆さんに感謝しています。これからも見守り続けてください。聴きにきてください。」と挨拶していました。



会場の皆さんと手遊びを交えて交流する

## 雪と遊ぼう

### 財田自然体験ハウス

二月十九日、財田自然体験ハウス事業「雪と遊ぼう」が行われ、大人八名（スタッフ含む）子ども五名が参加し、イグルーやスノーランタンを作りました。

イグルーとは、イヌイットの人たちが雪のブロックで作る簡易住居で、雪をブロックのように切り出し、ドーム状に積み上げ造られます。



雪を切り出し積み上げる「イグルー」作り

大人の参加者たちが、スノーソー（雪用のこぎり）で雪のブロックを切り出し、運び、次々と積み上げていき、隙間を雪で埋めて、わずか一時間余りで原形が完成しました。

それまで遊んでいた子どもたちを呼び寄せると、雪のドームの中から雪を割って、あいた穴から人が這い出でき、それを見た子どもたちは大喜びでした。

その後、入口を作り、イグルー内部の床部分を掘ると完成しました。中は大人が立てるほどの空間があり、外観に比べ広く感じられました。

また、参加した皆さんは完成したイグルーの中で、おしるこをいただくなどし、冬ならではの楽しい雪遊びを堪能しました。

## 色々な楽器でコンサート

### 寿大学第三講コンサート

二月二十一日、総合センタ―で今年度の最終講となる寿大学第三講が、留寿都高等学校教諭の鈴木尚さんを講師として迎え、色々な楽器を使つたコンサートが行われました。

鈴木尚さんは、山形県出身で少年の頃からギターを弾



色々な楽器を使って演奏した鈴木さん

き歌っていたそうで、大学生の時にはマンドリンを、三十を過ぎてからはバイオリンを習得し、今では何種類もの楽器を演奏できますが、チェロは置物になつていそうです。また、現在も教鞭を執る傍ら、各地を歌い周るなど音楽活動も盛んに行っています。

コンサートでは、ビートルズのレット・イット・ビーを和訳で歌い、故郷山形の民謡の真室川音頭、オートハープやハーモニカの演奏など、各楽器の説明や、色々な話などを交えてバラエティーに富んだコンサートを披露しました。



## D・A・Bオールスターズ招き

### 文協コンサート

洞爺村文化協会（京谷常美会長）では、三月四日(土)午後六時より総合センターにおいて、社会人バンド、DABオールスターズを招いて、洞爺村文化協会として最後のコンサートを行い、集まった村民



迫力のある演奏を披露するD・A・Bオールスターズ

の皆さんは、十八名によるフルバンド編成の生演奏に聴き入りました。

演目は、「雪国」などの歌謡曲、「おてもやん」などの民謡ジャズやサンバなど幅広いジャンルの演奏やボーカルを加えた演奏もあり、聴衆の皆さんも手拍子で応え、体を揺らし楽しんでいました。

優れた演奏者を抱えた同バンドは、北広島市を中心に、全道的に活動し、自主公演や各地のイベントにひっぱりだこということです。当日は、ご当地ソング「洞爺湖畔の夕月に」もプログラムに加え、イントロ曲あてクイズなどで聴衆の皆さんとの交流を図るなど楽しいコンサートになりました。

## 農業青年二人がニュージーランドへ農業研修

平成十七年度ふるさとリーダー育成事業（青年海外長期研修）として、大広和幸さん、増田和博さんが平成十七年十二月五日から平成十八年二月二十五日の約二か月半にわたりニュージーランドで農業研修をされました。

農家にホームステイしながら実際に農業に従事しましたが、その感想を簡単にまとめていただきました。

### 増田和博さん

ファームステイ五十七日、観光二十四日、私がニュージーランドで過ごした日々です。

自然豊かなニュージーランド。人



ステイ先の家族と一緒に記念写真

工的なものが少なく「観て」楽しむための観光、観光農園を目指していた一軒目。有機栽培で野菜を作り、レストランなどに直接売っていた二軒目。両方のファームステイとも、私が作ったことのない作物、やったことのない仕事があり、新鮮な気持ち、良い経験になりました。私の今後の人生にすばらしい影響を与えてくれた八十一日間でした。

今回研修に行くにあたり支援してくれた皆さん、ニュージーランドで出会った全ての人達に感謝しています。ありがとうございました。

### 大広和幸さん

昨年十二月五日より二か月半、ニュージーランドへ農業研修に行ってきました。マテイル（南島）の農家に二週間、ワイウク（北島）の農家に六週間ステイしました。

どちらも徹底した有機栽培にこだわりを持って働く一方で、精神的なゆとりを持つことをとても大切にしています。

この経験は、私の生き方に大きな影響を与えるものになりました。

# もうすぐ二年生

## ご入学おめでとうございます

今年の春、とうや小学校に入学する皆さんを紹介します。  
今年度から、四つの小学校が統合され、とうや小学校が設立  
されてから始めての新入学生となるのは九名です。  
雪が解けて暖かくなる四月七日は待ちに待った入学式です。  
皆さん、元気に登校してください。



山田 真希さん

(博久さん)  
香 川



安栖 永遠さん

(雅人さん)  
岩 屋



白 泉 優真くん

(彰吾さん)  
四町内



佐藤 厚太くん

(玲子さん)  
富 丘



村上 唯花さん

(貴仁さん)  
成 香



大石 雄大くん

(通大さん)  
美沢東



大西 浩司くん

(俊則さん)  
川 東



大畑 萌絵さん

(浩司さん)  
六町内



滝頭 湖雪さん

(敦 さん)  
成 香



## 消防だより

3月の広報テーマ

応急手当の普及啓発

# 火は消した？ いつも心に きいてみて

## 病気・けが・事故…いざという時あなたは？

洞爺支署が119番通報受けてから、救急車が現場に到着するまでの時間は、約20分から30分ほどかかります。洞爺村に来る救急車は、洞爺湖温泉町又は壮瞥町から来ます。

呼吸や脈が止まったときは、心肺蘇生法を少しでも速くしなければなりません。人間の脳は、呼吸が停止してから5分経過すると、助かる可能性があるのは、わずか25%と言われています。

また、重大な障害が残ってしまうことがあります。しかし、その場に居合わせた人の応急手当で、尊い命を救うことができます。



## 万が一に備えて、救急講習会のご案内

現在救急車は6.3秒に1回の割合で出動、国民の27人に1人が搬送された計算になります。村内に救急車が到着するまでは平均20分以上かかり、洞爺支署では村内で救急が発生した場合、先行として「洞爺連絡車」を向かわせ、救命処置のスピードアップを図っています。

昨年4月から出動する際には自動体外式除細動器（AED）を積載し、救急車到着までの間、患者の状態を確認して、蘇生作業<sup>そせい</sup>を行い、救命率の向上を目指しています。緊急時、消防車のサイレン「ウーウー」を鳴らしながら行きます。救急車を呼んだのに消防車が来た、と最初は思うかもしれませんが、救命のためご理解をお願いします。

また出動・サイレン等について、消防に問い合わせる場合には【☎74 - 3210】へお願いします。



|     |         |
|-----|---------|
| 1月分 | 火災・救急件数 |
|     | 火災件数 1件 |
|     | 【累計1件】  |
|     | 救急件数 7件 |
|     | 【累計7件】  |

洞爺支署（☎87 - 2119）

Eメール toya-f@poem.ocn.ne.jp

※火災などの発生地等の問い合わせは、  
（☎74 - 3210）までお願いします。

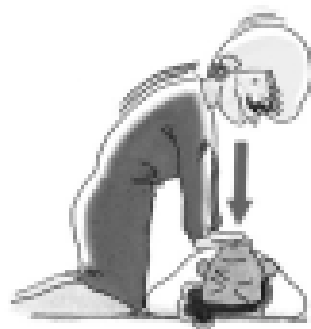
## 救急に消防車出動、救命へ救急車と連携

いざと言う時のために、消防署では多くの皆さんに応急手当を覚えていただくため、住民の方々並びに、各種団体、事業所等を対象にして講習会を行っています。

講習会の内容は、命にかかわる重要な手当の方法『心肺蘇生法・AED・止血法』や、日常のちょっとした怪我の手当の方法など、すぐその日から役にたつものです。ご希望がありましたら、お気軽に洞爺湖消防署洞爺支署までお問い合わせください。

また平成16年7月からだれでもAED（自動体外式除細動器）を使用できるようになりました。心停止した人に対しては、早期に心肺蘇生法とAEDを用いた電気ショック（除細動）を行うことが、救命率アップにつながります。西胆振消防組合のほかAEDを導入しているのは、豊浦町「天然豊浦温泉しおさい」、虻田町「ザ・ウィンザーホテル洞爺」、大滝村「フォーレスト276」の3ヶ所です。

各事業所など、いざと言う時、命を救うために備えてみませんか？



▲現在、医療器具として薬事法上の承認を得ているAED

## 洞爺消防団、消防庁長官表彰を受賞

西胆振消防組合洞爺消防団がこの程、総務省消防庁長官表彰『竿頭綬』を受賞しました。竿頭綬は災害の防御と消防力の強化につとめその成績は優秀であり、他の模範と認められる消防機関に対して行う表彰です。

洞爺消防団は大正5年私設消防組として始まり、昭和14年警防団に組織を変え、昭和23年現在の消防団になりました。地域の安全や防火活動に寄与し、長年にわたる消防団活動の功績が認められ、受賞となりました。





# こんにちは栄養士です

## 早寝早起きでおいしい朝ごはん！

### ～子どもの朝ごはん～

発育の盛んな子どもにとって朝ごはんはとても大切なものです。午前中に元気いっぱい活動するためのエネルギー源であり、大きく成長するための栄養源でもあります。ところが、「時間がない」「たべたくない」などの理由で朝食を抜く子どもが増えています。最近の子どもたちの生活時間は大人に合わせて夜型になる傾向があります。9時、10時と就寝時間が遅くなると、すっきり目覚められないため、朝なかなか食欲が出ません。1日3食食事を取る習慣は、成長過程での肥満や生活習慣病の予防のためにも大切です。とくに朝食は1日の活動をスタートさせる重要な食事ですので、夜更かし生活を見直し、朝は余裕を持ってすっきり目覚め、しっかり食べるリズムを組み立てましょう。

### こんな「朝ごはん」がおすすめです♪

#### ♪手早く作れる物を

食べたり、作るのに時間のかかる料理は朝食には向きません。  
電子レンジやフライパンひとつで手早くできる献立にしましょう。

#### ♪主食はしっかりと

ごはんやパン、麺類などの主食になる糖質を食べましょう。  
活動するためのエネルギー源となります。

#### ♪体が温まる一品を

温かい汁物やホットミルクなどを飲むと、起きたての低い体温が上がって、体が活動しやすくなります。

#### ♪たんぱく質をたっぷり

肉や卵、大豆製品は、成長期の子どもの体づくりに重要なたんぱく質食品です。主食＋飲み物だけでなく、おかずも必ずとりましょう。

#### ♪野菜や果物を忘れずに

体の調子を整えるビタミンやミネラルと、食物繊維豊富な野菜や果物も、朝食で忘れずにとりましょう。



時間のない朝は簡単で食べやすい朝食を工夫してみましょう。実だくさんのみそ汁やおにぎりを前夜に作り置きしたり、時間のあるときにホットケーキやお好み焼きなどをたくさん焼いて冷凍保存し、朝は電子レンジで温めるだけでもよいでしょう。バナナやヨーグルトなども時間のないときには助かります。

朝食をしっかり食べると元気に遊べます。朝食がおいしく感じられたら、おのずと食べることへの意欲や食べ物に対する関心も生まれます。

## 住民福祉課からのお知らせ

### 洞爺湖町健康づくり推進員の募集のお知らせ

現在、虻田町で活動している健康づくり推進員会では、健康づくりウォーキング会や健康づくり講演会などの活動を通じて、自分や家族、地域の人々が元気で生き生きとした生活を送るために必要な健康づくり活動を行なっています。

合併に伴い、今後この活動を新しい洞爺湖町全域に広めるために、この度新たに推進員として活動してくださる方を募集いたします。

健康について振り返り考えてみたい、また健康づくりに積極的に参加したいという方は、一緒に活動してみませんか？

ボランティア活動となりますので費用弁償はありませんが、町外で行われる研修会へ参加する場合は無料で参加できます。

任期：平成18年4月1日～平成20年3月31日（2年間）  
お問い合わせ、お申込みは

ふれ愛センター（☎87・2727）まで

### 粗大ごみの臨時収集を行います。

新年度を迎えるこの時期は引越しに伴う粗大ごみの排出量も増えると思います。

そのため今回臨時の収集日を設けますので毎月の収集と同様、「粗大ごみ処理券」（シール）を1つにつき1枚貼り、朝8時までにごみステーションに出してください。

粗大ごみ収集日 3月30日（木）

## 冬季レクリエーション開く

### 洞爺村連合自治会

洞爺村連合自治会では、二月二十六日、午後一時より総合センター集会所で、ゲートゴルフによる冬季レクリエーションを行いました。

五名（補欠二名以内）でチームを組み、各チームが交代でボールを打ちゲートを通過して止まった位置の得点で勝敗を競い交流を深めました。各自治会から二チーム以内



ゲートゴルフを楽しむ参加者の皆さん

の参加とし、虻田町の一チームを含め、十四チーム約百名が参加しました。結果は次のとおりです。

#### 【優勝】

第一自治会B（大西俊雄、宮武勝信、佐藤了、宮武クニ、仲澤松男、増田善二）

#### 【準優勝】

財田・川東・岩屋自治会B

#### 【三位】

財田・川東・岩屋自治会A

### 大回転で競う 管内スポーツフェスタ

二月十二日、管内規模で道民のスポーツ・レクリエーション活動の場を提供し、その生活化を促すことを目的とした胆振管内スポーツフェスタ冬季大会が、登別市のサンライバスキー場において行われました。



青年の部優勝の塩田光さんほか参加者の皆さん

大会種目は、七クラスに分かれた大回転競技で九十七名が参加し、本村からも四クラスに七名が参加し、健闘しました。

成績は、次のとおりです。

【青年】優勝・塩田 光  
【壮年A】五位・横山弘明  
【一般女子】六位・大広千晶

## 表彰 おめでとうございます

### 洞爺村交通安全村民運動 推進委員会に感謝状

平成十八年一月三十日、伊達警察署において、洞爺村交通安全村民運動推進委員会の長年に亘る交通安全運動を称えて感謝状と記念品が贈られました。

昨年は北海道にとって、交通死亡事故死ワーストワンを返上するとともに死亡者数も大幅に減少し、交通安全運動にとっても日頃の活動が報われた年でありました。

今後も住民の皆様方とともに安心・安全な町を目指し活動してまいります。

### 総務大臣表彰

多年にわたり選挙の管理執行及び明るい選挙の推進に尽力されている、洞爺村選挙管理委員会委員長の大廣深さんに先に行われた第四十四回衆議院総選挙に係る総務大臣表彰が贈られ、三月八日、洞爺村役場において伝達式が行われました。



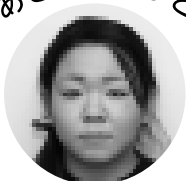
表彰状を受ける大廣 深さん

## 合格 おめでとうございます

二月十一日、二十六日、

美しくすこやかに育って欲しいという願いで名付けました。

おかあさんからひとこと



絆の強い兄妹に育ってほしいです。

ルスツリゾートスキー場でスキー検定会（洞爺スキークラブ主催）が行われ、次の方々が合格しました。（敬称略）

### 【級別検定】

#### ◇一級

小山 一典・小山 雄矢

合田 貴紀

#### ◇二級

塩田 未来・佐々木隆生

合田 幸恵

#### ◇三級

合田 真悟・木下 龍

### 【ジュニア検定】

#### ◇一級

丸田 光貴・押切 直哉

#### ◇二級

前田 幸輝

#### ◇四級

丸田 直弥・鈴木彩理奈

石井 美来・前田 裕也

#### ◇五級

丸田 怜奈

二月二十四から二十六日には、同スキー場でSAJ準指導員検定が行われ、次の方々が合格しました。

### 【準指導員】

塩田 光・伊藤 優子

青山 剛

## 誕生

おめでとうございます

酒井 ユカラくん

父 理智さん

母 麻野さん

1月15日生まれ

三男 富丘

村上 華菜ちゃん

父 英史さん

母 由理子さん

2月14日生まれ

次女 大原

□橋 泰生くん

父 道宏さん

母 文月さん

2月20日生まれ

次男 1町内

## おくやみ

申し上げます

神原 常一さん

2月27日死去

81歳 3町内